

さわらび

2019. 10. 8 No. 16 文責：大塚

しっかり考慮して

10月5日(土)、今年度の防災参観日を行いました。この日の内容は、1時間目は「大方高校生との防災学習」、2時間目は講演でした。

■1時間目

〈大方高校からの参加者〉

北澤匠くん 濱岡玲太くん
松田成留くん…(いずれも2年生)
上原健教頭先生 近森美保先生



大方高校の防災の取組を紹介していただいた後、大方高校を避難所として作ったオリジナルのHUG(避難所運営ゲーム)を使って、生徒・保護者・教職員・地域のみなさんでグループに分かれて学びあいました。HUGは、避難所となる場所の見取り図の書かれた模造紙上で、次々に来る人々をどこに配置していくかを考える教材です。それぞれの家族の年齢や困り感に配慮しながら決めていくのですが、なかなか迷ってしまいます。

当日は、高校生がコーディネーターとして札を読み上げてくれたり、考えるヒントを出してくれたりしました。また、生徒同士や生徒と地域の方の意見交換も積極的に行われる時間となりました。



■2時間目

〈講演〉

演題：つながりはぬくもり～防災教育にかかわって～
講師：杉山高志さん(京都大学防災研究所)



講師の杉山さんは、京都大学防災研究所で防災についての心理学的なアプローチ(避難行動、被災経験談、防災教育など)を中心に取り組んでいる研究者です。杉山さん自身が「防災」を研究することを仕事にした経緯から始

まった講演は、「楽しいは原動力」という切り口で、環境問題や防災活動をとりあげて話していただきました。最後に、「中学生は地域の頼られる人」だとのメッセージもありました。

〈生徒の感想〉

〇僕は今回初めてHUGをしました。初めてだったこともあり、難しいと思うところがたくさんありました。避難してきた人の特徴、年齢、性格などをしっかり考慮して、(避難場所を)1階か2階か考えることが難しかったです。……今回の防災学習をとおして学んだ、瞬時に適切な対応ができるように日頃から意識していこうと思います。

〇私はHUGというゲームを全然したことがなく、とても新鮮でした。(設定されている)避難してくる人は多くの方が60歳以上のお年寄りが多く、誰をどこに移動させたらいいのかとても迷いました。また、避難してきた人からの要望などイベントカードにも応えなければならず、とても難しかったです。……私たちが地域の人たちと防災学習をしたことが何回かあるけど、自分たちから呼びかけをしたことがあまりないので、これからは自分たちから呼びかけたり、地域をもっともっと知って、アイデア・意見が出せるようになったらいいなと思いました。



今年も近づいてきました!

～四万十川ウルトラマラソン～

10月20日(日)に本校を開会式会場、坂折橋付近をスタート地点として行われます。実行委員会のみなさんを中心として市内あちこちでも準備が進められていますが、「いつも以上にきれいな会場で」と本校も準備を進めています。選手への応援メッセージは9月に提出しましたが、「石の絵」も先日完成して実行委員会へ届けました。これも、選手にとっては、とてもうれしい記念品となっているそうです。

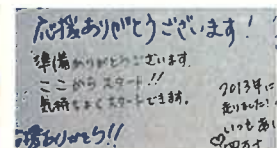
また、外掃除も継続しています。毎週木曜日の掃除の時間(15分)ですが、「学校をきれいに大事に使うことは、最後の卒業生として



しっかり活動して母校を誇りに思うことの1つ」として1学期からスタートしました。こういう小さなことの継続が、ランナーの皆さんを気持ちよく迎えることにもつながっています。

今年の大会も、生徒・教職員でボランティアとして参加して、まだ暗い午前4時前から、開会式会場の給水ボランティアとして活動します。

昨年度もそうでしたが、更衣室にしている多目的室と体育館のメッセージボードにランナーの皆さんが書いてくれる言葉は、今年も私たちに元気をくれることと思います。しっかり準備して、おもてなししたいと思います。



(昨年度の様子から)